

Title	神奈川県日吉の舊石器時代人類遺物(豫報)
Sub Title	
Author	永澤, 譲次(Nagasawa, Joji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.18, No.1 (1939. 9) ,p.165- 169b
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	挿繪:神奈川県日吉の舊石器時代遺跡及び遺物寫眞二葉
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

神奈川縣日吉の舊石器時代人類遺物（豫報）

永澤讓次

昨年（昭、十三年）秋より、慶應義塾大學三田史學會の委囑に依りまして、神奈川縣横濱市港北區日吉臺附近の地質を調査致して居りました處、本年の一月、日吉臺附近矢上及び井田の崖の地層中より、圖らずも、舊石器時代人類遺品かと認定し得る骨角器其他を得ましたので、是に就て概略を報告致したいと思ひます。

矢上の崖は東横線元住吉驛と日吉驛間にある多摩丘陵突端の崖でありまして（第一圖）、斷面に露はれた地層は、下部から灰色土丹凝灰質頁岩、（基盤）礫層、埋木を含んだ砂層（遺物包含層）、礫層、青灰色粘土質貝殻の層、黄色砂層、ローム層の順

神奈川縣第吉の舊石器時代人類遺物（豫報）（永澤）

にあらはれて居ります。（基盤から貝殻の層の下部迄の高さは發掘地點に於ては約二米に達す）而して此礫層及礫を混じた砂層の砂礫を掻き落して居りました際、此中に奇妙な條痕の這入つた小礫のあるのを認めました。この礫（長サ約一寸大の稍、扁平なる圓礫）は水洗してよく調べて見ますと、人工の加はつた疑ひが甚だ濃厚なのであります。引續き猶この個處を發掘致しました處、礫層の上の砂層中の下部より、鹿角及頭蓋骨上部、肢骨、流木等多數を採集する事が出來ました、鹿は絶滅した「ニホンムカシ鹿」の胴體を除いた頭及四肢の骨であります。是等骨角類は水蝕削磨の痕跡が

（一六五）

一六五

極めて少なかつた事は還境の地質が保存に好條件であつた事を證明し得らるのであります。更に埋木を含んだ砂層よりは摩滅してゐない「クルミ」(オニグルミ及ホウセンデグルミ)や、「サイカチ」の刺を多數得ました。「クルミ」には孔のあいたものが多數あります。猶昆蟲の羽も出土した。因に數年前此崖の貝殻層より象牙(パレヲロクソンドン象?)二個を出土せしめました前例もありました。

次に同所より北方約一町餘の距離に井田の崖(第二圖)があります。こゝは前記の矢上の崖と同一地層でありまして礫層の上部砂層の小石交りの中より「骨さじ」Spatule及び哺乳類に屬する動物の肢骨(但し種名は不明)「クルミ」を採取致しました、而して「骨さじ」及び肢骨は、地層が前記矢上の地層に比較して乾燥の度強く、濕潤性に乏しき爲め保存が悪いのであります。また「骨さじ」

(第三圖一、二、三)に就きましては、歐州舊石器時代(特にマグダレニアン)の「骨さじ」とその大きさ(中指大)形態共に頗る類似したものがありません。然も自然の削磨によりその形態が造られたものでない事は前記の肢骨及び矢上の同一地層より出土する骨角類及「クルミ」、「サイカチ」のトゲ等が自然削磨作用を顯著に受けて居らない點から充分類推し得らるのであります。察するに陸地に近い海底(基盤に著しい穿孔貝の痕跡がある故)に押し流されて、これら生物遺骸と共に埋没存在し得たものと判断し得るのであります。

以上述べました地點の地質を観察致しまするに、矢上及井田の貝層及其下の遺物層(砂層及礫層)は鶴見の寶泉寺門前の下末吉層及菊名の介石層、及日吉村加瀬の鐵道官舎裏の崖に露出する埋木層とは一脈相關連するものなる事は是等の地層中より私が何處も同一種類の「クルミ」及び「サ

「イカチ」の刺を採集致し得たる事に依つて確定し得られたのであります。猶この地層は多摩川を隔てたる東方對岸の地下に迄擴がつてゐることは、利根ボーリング會社が曾て二子玉川瀨田に於て試錐を致しました地下十數米より、「オニグルミ」を採集したと云ふ事實によつて證明せられ、詳しくは、玉川等々力町不動瀧の瀧壺の下部邊りに連續して行くものであることを化石及び層位上より認め得るのであります。この地層は大體洪積期東京層乃至その上の成田層の下部に連續されるものと想像せられるのであります。

下末吉層の地質時代は、最近、洪積層の中部乃至上部と見做す説が有力であります、(鈴木、高井、池邊學士等の説)。また栃木縣葛生の石灰岩裂罅より多數の哺乳類の化石が發掘されて、その内には歐州舊石器時代の主なる動物群に屬する「メガセロス」、「エルク」、野牛、赤鹿、其他ナマヂク

神奈川縣日吉の舊石器時代人類遺物(豫報)(永澤)

ス象の類が含まれて居り、鹿間學士は後期洪積乃至中期洪積の「ファウナ」と考察せられて居ります。私はこの葛生化石層(上部葛生層)は、日吉の遺物包含砂層よりもいくらか下位にある可きもので、大體保土ヶ谷礫層の連續である横濱市南太田驛傍の崖の中腹に露出する砂礫の厚層と略同一時期のものと考へて居ります。その理由は、南太田の砂礫層からは「エルク」の出土した事及びこの層の上部の泥炭層からは私が昆蟲(マルクビゴミムシ)や木の實を發見したこと又横濱市山下町見晴トンネル上の崖では砂礫層の上位に菊名介層の貝に類似した貝を含む化石層の存在する事實を今回發見し得たからであります。

要之大體、森林系動物の繁殖した今日より幾分寒い氣候の人類居住可能の一時代が、洪積の上部近くにあつたと云ふ事を信じて居るものであります。而してこの時代の植物界は馬込池上間に露出

する赤土層の下の黄色砂層下の泥炭層から、私が今回發見致しました赤松？の毬果や、「エゴノ木の實」、「ヒバ」、「ルリクビボソハムシ」(昆蟲)類と前記矢上の「サイカチ」、「オニグルミ」等から推定して、著しき寒地性のものではない事が推察し得らるゝのであります。

翻て之を歐洲方面に徴しますると同方面の出土の骨角器は後期舊石器時代「オーリナシアン」に到りて著しく發達の度を示して居ります、而して今我邦の是等地層の文化年代と對比致しますと矢上及井田の遺物包含地層はオーリナシアン以後と斷定し得らるゝのであります。果して然らば大體「ムステリアン」「オーリナシアン」の舊石文化遺物は滿洲、蒙古、支那、シベリアに散在發見せられ居るのでありますから此時代には少なくも我日本本土を包含する東亞一帶に人類が分布してゐたものと云へるのであります。猶又ジャワ、周口

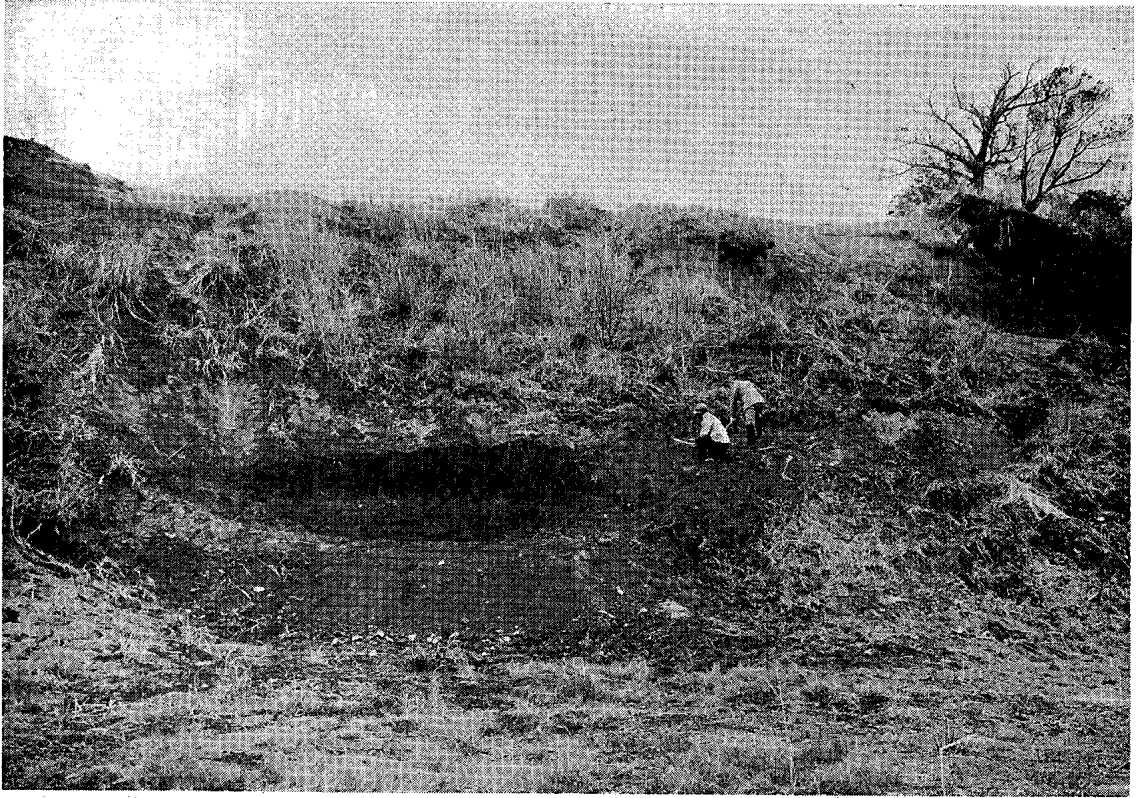
店の洪積初期乃至第三紀末に猿人及び人類の化石が出て居り、印度、ビルマに初期舊石器時代があつたと致しますれば、要するに人類文化の始原は實に東亞にありと考察するも、また故なきにあらざと申さねばなりません。終りに臨み、本調査に援助を與へられたる慶應義塾大學當局、三田史學會、指導と忠告を給はつた大山公爵、長谷部言人教授、山内清男氏に謹みて謝意を表します。

(昭和十四、七、二十七)

日本（關東主として東京西南部）舊石器時代末以降編年表（昭和拾四年八月永澤調製）

地質時代	考古學的時代	地層	生物（フオーナとフロラ）	氣候	北 歐 歐 洲
沖積世	原史時代	泥炭層 } 池上蒲田附近 礫層 }		—溫	
	貝塚の時代	芝櫻田公園大神宮境内, 矢口, 池上の地下介層(含礫粘土又は砂交り層)	Arca granosa, Meretrix, Dosinia, Ostrea, Paphia, Cyclina, Turbo, Nassa, Natica.	—稍暖	
	?	房州の沼珊瑚其他暖海棲隆起介層其他未調査(この介層は貝塚期のものかも知れぬ)	印度象, 珊瑚, 暖海棲貝類(印度象の出土地層不明)	—暖	—リトリナ期
洪積世 (下削除)	舊石器時代	?		—解氷期	—アンシルス期
		赤土 粘土			—マグダレニアン
		砂層又は砂礫層	—稀に帆立介を含む(鶴見)	—解氷期	—アンシルス期
		神奈川縣上 柏尾層 矢上井田大倉山介層 馬込池上間泥炭層 人類遺物層 上部葛生層 保土層 ヶ谷 横濱植物層	赤松, エゴノ木の實, ヒバ, ルリクビホソハムシ オニグルミ, サイカチ, ニホンムカシ鹿, ナマヂクス象?(森林系)	—稍寒	—アンシルス期 —マグダレニアン —ヨルヂャ期
	エルク, メガセロス, 赤鹿, ナマヂクス象, ニホンムカシ鹿(森林系)	—寒			
	コナラ, プナ, カヘデ, ハクウンボク, ケヤキ, イヌシデ, イボタ	—寒	—オーリナシアン?		

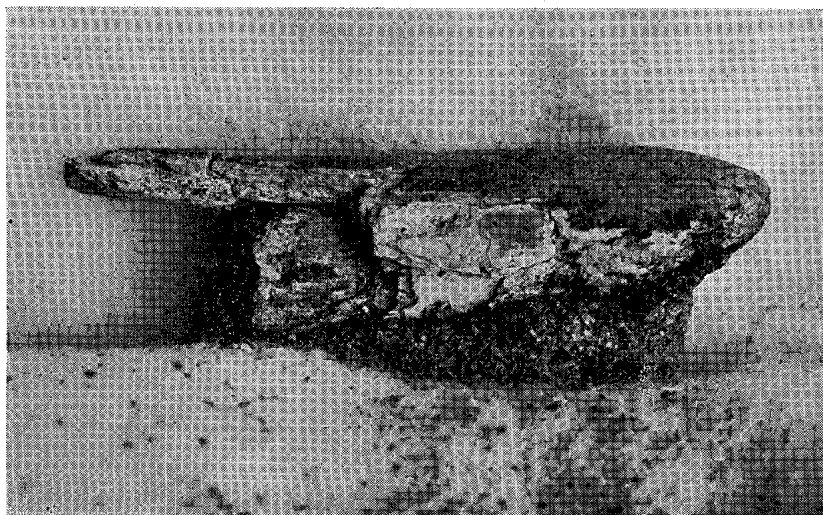
赤土は元來古生物上時代未定なり。一部沖積世の疑ありと謂はる。~~~~は不整合を示す。-----は限界不明瞭を示す。



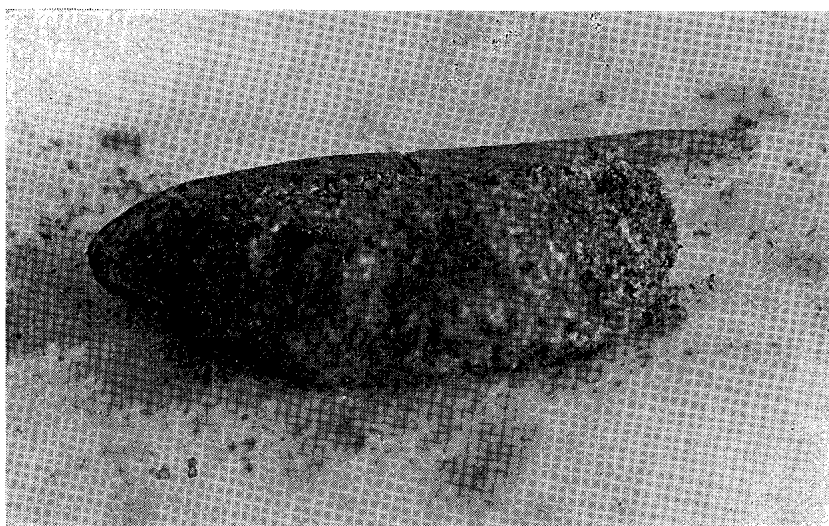
第一圖 矢 上 の 崖
(基盤のポケット状凹部に遺物層が堆積してゐる)



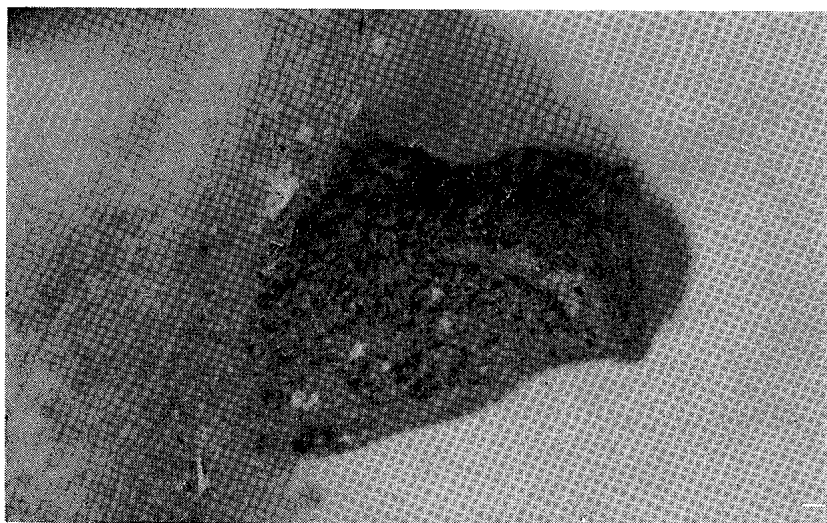
第二圖 井 田 の 崖
(遺物は中腹より發掘された)



上 面 觀



裏 面 觀



突 端 上 面 觀

第三圖 Spatule (略實大)